

ニューヨーク視察報告

【目的】

政治・経済・文化・ファッション・エンターテインメントなどの複数分野における世界の中心であり、世界で最も影響力のあるデザインの中心地ニューヨーク。ここで年 1 回開催される、デザインフェスティバル NYC×Design を訪問し、デザインの最新動向に触れると共に、コロナ禍前後の様々な変化を体験することで、今後の方向性を考えるヒントを掴む。

【日程】

2023 年 5 月 22 日～5 月 24 日(現地時間、時差 13 時間)

【主要訪問先】

NYC×Design festival <https://nycxdesign.org/>

2013 年に設立された「NYCxDesign」は国内外から数十万人の来場者を集める国際的なデザインイベントです。最先端のデザイン会社やデザイン地区、さらにはデザイン学校が参加して、市内を拠点にするデザイナーやメーカーなどの技や多様性を紹介します。また、ICFF+ WantedDesign などの展示会の他、ニューヨークの 5 つの区で何百もの関連イベントが同時に開催されます。

① **ICFF* + WantedDesign Manhattan** at 5/22

<https://icff.com/> *International Contemporary Furniture Fair

Lightfair at 5/24

<https://www.lightfair.com/>

② **The Metropolitan Museum of Art** at 5/23

<https://www.metmuseum.org/>

Karl Lagerfeld: A Line of Beauty <https://www.metmuseum.org/exhibitions/a-line-of-beauty>

Van Gogh's Cypresses <https://www.metmuseum.org/exhibitions/van-gogh-cypresses>

③ **MOMA*** at 5/23

<https://www.moma.org/> *The Museum of Modern Art

④ **Museum of Arts and Design** at 5/24

<https://www.madmuseum.org/>

⑤ **The Noguchi Museum** at 5/24

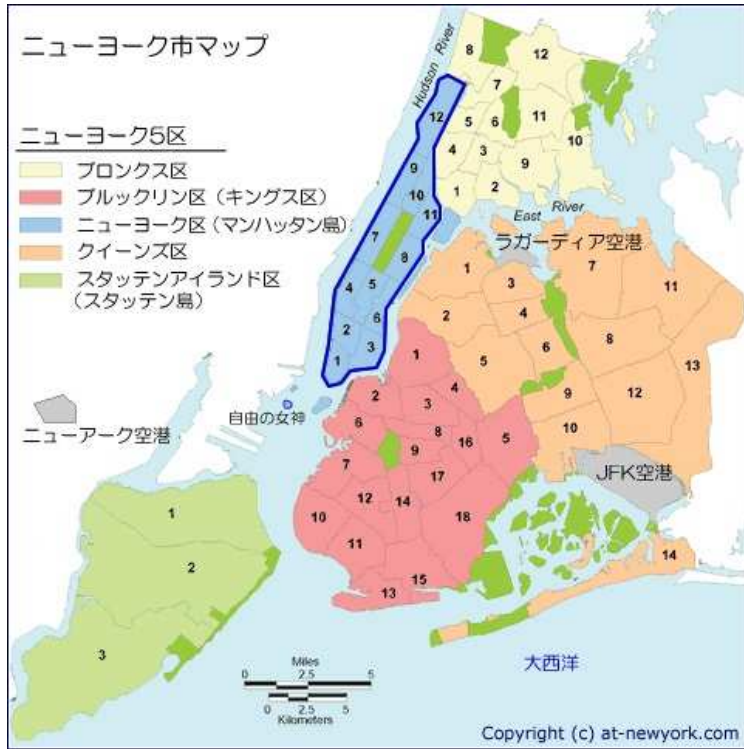
<https://www.noguchi.org/>

LOEWE FOUNDATION Craft Prize 2023

<https://www.noguchi.org/museum/exhibitions/view/loewe-foundation-craft-prize-2023/>

Early Patterns: Reintroducing Akari of the 1950s

<https://shop.noguchi.org/>



(Hotels.com より)

【所感】

前回 NYC 訪問はコロナ前の 2019 年 7 月だったが、その時の違いを中心に以下に記載する。

・物価上昇及び円安

前回も日本よりは物価高だったが、さらに大きく物価が上がった。日本円の安さ(弱さ)を痛感した。

ビッグマックセット 約 1,700 円

ホテル代(チェルシー地区、ビジネスホテルレベル) 約 37,000 円/泊

※マンハッタンでは安いほう。3 月のロンドンは約 27,000 円/泊だったので、さらに 10,000 円高い。

・観光客

全般的に少ない。団体旅行が制限されているためか、特に中国人が減少していた。日本人観光客はほとんど見かけず。物価高の影響や政治的な問題の影響もあると思われる。

平日の日中ではあったが、高級百貨店サックス・フィフスアベニューの来客は極めて少なく、店内が閑散としていた。サックス・フィフスアベニューの対面に、コール・ハーンの旗艦店があるが、こちらもその時間帯には、ほとんど来客なし。



・治安

主に地下鉄で移動したが、日中のためか特に危険な感じはなかった。ただ、地下鉄は構内・車両共に汚いので心象は良くない。これは文化の違いもあるが維持メンテナンス予算の問題と思われる。日本の豊かさがこういう面で鑑みられる。コロナ前は夜間でも治安の悪さはあまり感じなかったが、今回は念のため夜間の外出は控えたので、その状況・雰囲気は不明。

※地下鉄料金は\$3ドル(約 400 円)/回(距離によらず)、チャージ式のメトロカード(\$1)を購入すると\$2.75/回。クレジットカードタッチ等が使用できる入口もあり。

・他

ニューヨーク市内で工事現場(主に改築)が目についた。コロナために止まっていた工事が一挙に始まったためか？

ホテルやスーパーマーケットの従業員の多くが黒人・ヒスパニック系だった。ブルーワーカーの人手不足のためか？移民に寛容と言われるニューヨーク地区の特性か？

アジア(特に中国)からアメリカ行きの飛行機便数がまだ少ないためか、往復とも機内に日本人以外のアジア人乗客が多かった。東京でトランジット？

【ICFF + WantedDesign Manhattan / Lightfair】

会場：Javits Center (Jacob K. Javits Convention Center)

イオ・ミン・ペイ&パートナーズの James Ingo Freed による設計で、革新的なスペース・フレーム構造を採用している。建設は 1980 年に着工し、1986 年に竣工した。施設名は、完成した年に死去したアメリカの上院議員ジェイコブ・ジャヴィッツから取られている。展示スペースの面積は 62,700 m² である (ビッグサイトの 115,420m²)。



ICFF

会期：2023年5月21日～23日

展示内容：家具、照明、キッチン&バス、壁紙、アクセサリ、テキスタイル、カーペット&フローリング等。

展示スペース：約 10000 m²？

来場者：約 10000 人(予測)

展示会の規模はそれほど大きくなく、来場者もそれほど多くはなかった。過去の資料からは来場予測が 38000 人となっているものもあったので、来場者・出展者共にコロナ後の回復途上と思われる。ヨーロッパの展示会とは違い、事前予約すればビジネス客の入場は無料。

南米からの出展者が多く、エスニック調の個性的なデザインが目についた。その中でもブラジルコーナーはブラジル政府が”BRAZILIAN FURNITURE”の売り込みに力を入れているようで、独自に出展者カタログ（冊子）も用意されていた（主催者のカタログは Web 版のみ）。また、アメリカ人の好みなのか、カラフルな色使いの商品展示も多かった。日本ではあまり見かけないデザイン・色使いが多く、参考になった。

イタリアコーナーもあったが、出展者はあまり多くなく、出品内容も装飾品が中心で、家具は少なかった。イタリア家具はアメリカ人の好みに合わないのか？

また、SDGs 的関連のアップサイクル、材料再利用等の展示コーナーも設けられていたが、参考出品的であり注目されていなかった。





WantedDesign Manhattan

主に個人デザイナーの作品展示。個性的なデザインが多く、興味深かった。日本人デザイナーの出展も複数あり。



Lightfair

会期：2023年5月23日～25日

ICFF 来場者は入場できるとのことだったので、別日に行ってみたが、LED 照明の形状バリエーションがある程度で、特に目についた展示は無かった。京セラが出展していた。



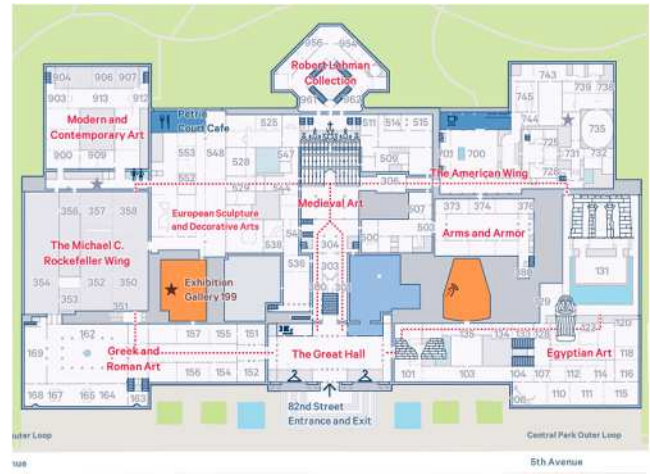
【The Metropolitan Museum of Art】

メトロポリタンの特色は、そのコレクションの幅が極めて広く、古今東西問わずあらゆる時代、地域、文明、技法による作品を収集していることにある。そして最大の特色は、これだけの規模の美術館が、国立でも州立でも市立でもない、純然とした私立の美術館である点である。総面積は 185,800 m² (Wikipedia)。

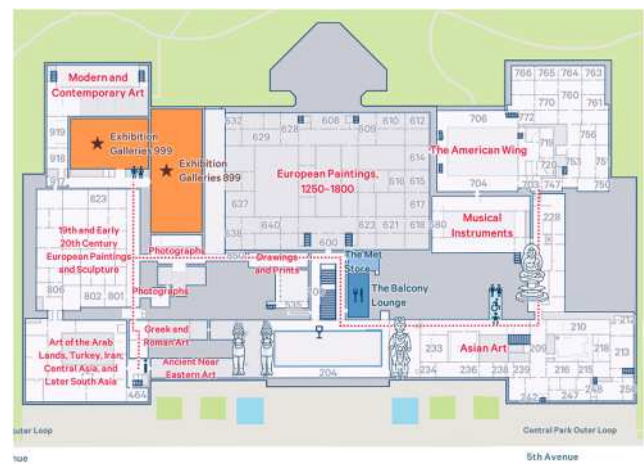
2 度目の訪問である今回は、古代・中世ゾーンは流し見して、企画展であるヴァン・ゴッホのイトスギ展と、カール・ラガーフェルド展を中心に見学した。

企画展入場の際し、追加料金は不要だが、館内に掲示されている QR コードから予約サイトにアクセスして、申込する必要があったが、日本の電話番号が上手く認識されず、手間取った。

ニューヨーク市民は入場無料のためか、入口階段でのんびりしている人が多くいた。ちなみに入場は時間指定制ではない。



1 F



2 F

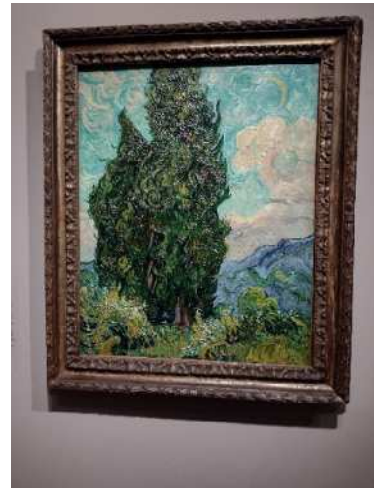
Van Gogh's Cypresses

ゴッホが糸杉を主題にしたのは、亡くなる前年の1889年。南フランスの町アルルで精神を患い、25キロ北東に位置するサン・レミの療養院に入院した時期に当たる。発作の恐怖におびえながら「発見」したモチーフが糸杉だった。

弟のテオ宛ての手紙には「いつも糸杉に心ひかれている」と記した。線の美しさや緑の質に魅了され、「ヒマワリを扱ったように描いてみたい」と意欲も述べている。

ヒマワリは病を発症する前のアルル時代に取り組んだ主題であり、ゴッホの代名詞でもある。画家の共同体をつくりたいゴッホに呼応したゴッギャンの到着を待ちながら、共同生活の場となる「黄色い家」を飾るために精力的に描いた。

ヒマワリでは黄色とオレンジの明るく鮮やかな色調を試みた。対して糸杉で探求したのは暗い緑の色調の表現だった。南フランス時代の集大成と称される「夜のプロヴァンスの田舎道」は、暗さの中に豊かな色調と色彩効果が目を引く。



The Merry Michel, June 1890
Oil on canvas
1890, Musée d'Orsay, Paris
The Merry Michel is a painting by Vincent van Gogh, depicting a man in a red coat and hat, standing in a field. The man is looking towards the viewer. The background shows a landscape with trees and a building. The painting is signed 'V. van Gogh' in the bottom right corner.



Country Road in Provence by Night, May 1890
Oil on canvas
1890, Musée d'Orsay, Paris
Country Road in Provence by Night is a painting by Vincent van Gogh, depicting a path leading through a landscape with a large cypress tree. The path is illuminated by a street lamp. The background shows a landscape with trees and a building. The painting is signed 'V. van Gogh' in the bottom right corner.

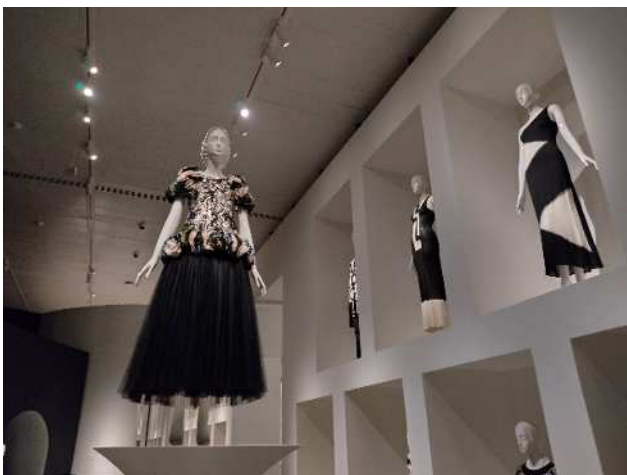
Karl Lagerfeld: A Line of Beauty

カール・オットー・ラガーフェルド (Karl Lagerfeld, 1933年9月10日 - 2019年2月19日) は、ドイツ出身のファッションデザイナー、写真家。フランス・パリ近郊ヌイイ＝シュル＝セヌ在住。

世界的なブランド「シャネル」「フェンディ」「クロエ」等のヘッドデザイナーあるいはクリエイティブ・ディレクターを務め、様々なファッション・アートプロジェクトで業績を残したファッション界の重鎮。ポニーテールの白い髪・暗い色のサングラス・高い襟のシャツという容姿がトレードマーク。

ブランドによらず、一貫して女性らしさを引き立てるデザインで、大半がスカートスタイルの展示だった。一人のデザイナーがこれだけの種類をデザインしてきたことに驚きを感じた。





常設展：有名作品を数点抜粋

François-Auguste-René Rodin



Georges Seurat



Eugène Henri Paul Gauguin



Claude Monet



Pierre-Auguste Renoir



Van Gogh



Edgar Degas



Henri Matisse



Édouard Manet



Paul Cézanne



Georges Braque



Henri Rousseau



【MOMA】

ニューヨーク近代美術館（The Museum of Modern Art, New York）は、アメリカ合衆国ニューヨーク市にある、近現代美術専門の美術館である。マンハッタンのミッドタウン53丁目に位置し、1920年代から「ザ・モダン」と呼ばれたモダンアートの殿堂。

英文館名の頭文字をとって「MoMA（モマ）」と呼ばれて親しまれるニューヨーク近代美術館は、20世紀以降の現代美術の発展と普及に多大な貢献をしてきた。総面積は6万5000㎡。



Ellsworth Kelly (Exhibition)



Yayoi Kusama



Andy Warhol



Haim Steinbach



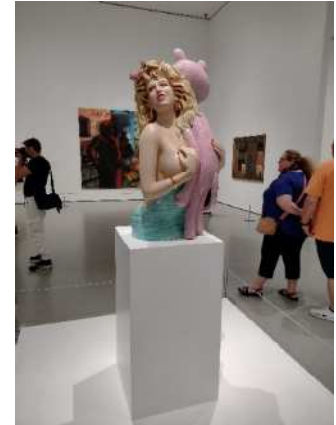
Jackson Pollock



Shuji Mukai



Jeff Koons



Pablo Picasso



Marc Chagall



Henri Rousseau



Gustav Klimt



Georges Braque



René Magritte



Vasily Kandinsky



Amedeo Clemente Modigliani



Fernand Leger

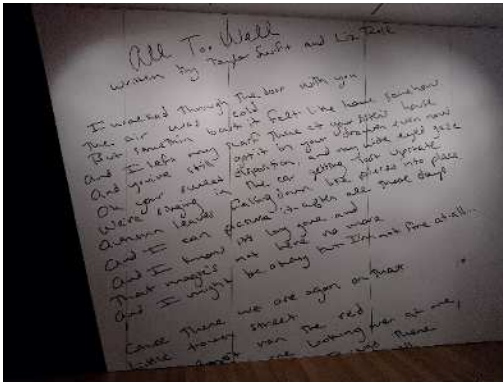


【Museum of Arts and Design】

ミュージアム・オブ・アーツ・アンド・デザイン (Museum of Arts and Design, MAD) は、ニューヨーク市マンハッタン・コロンバスサークルにある、粘土、ガラス、金属、繊維、および木材などの様々な媒体による現代的な手工芸品の収集、保存、研究、および展示を行う施設である。

5,000m²以上の面積で、有名アーティストから新進のアーティストまでの作品を展示する 4 階分(2F~5F)のギャラリー、講義・解説や上映、パフォーマンスが行われる 150 席のホール、およびレストランなどが敷地内にある。

Taylor Swift: Storyteller(2F)



Craft Front & Center : EXPLORING THE PERMANENT COLLECTION(3F)



Generation Paper : A FASHION PHENOM OF THE 1960S(4F)



Funk You Too! : HUMOR AND IRREVERENCE IN CERAMIC SCULPTURE(5F)



【The Noguchi Museum】

ノグチ美術館は、ニューヨーク市クイーンズのロングアイランドシティセクションにある博物館と彫刻庭園で、日系アメリカ人の彫刻家イサムノグチ(1904-1988)によって設計され、ノグチのアトリエ跡地に設立された。1985年に一般公開されたこの博物館と財団は、ノグチの彫刻、建築模型、舞台デザイン、ドローイング、家具デザインの保存および展示することを目的としている。

常設展



Early Patterns: Reintroducing Akari of the 1950s





“Red Cube” 140 Broadway New York

LOEWE FOUNDATION Craft Prize 2023

NYC×Design イベントとして、ノグチ美術館で開催されていた。製作方法がかなり特殊な作品ばかりで、展示数は少ないが、見応えがあった。今回受賞者3名のうち2名が日本人。

大賞：稲崎栄利子「Metanoia」



特別賞：渡部萌「Transfer Surface」

特別賞：ドミニク・ジクベ「The Watchers」

